

恒川遺跡群

2005年3月

長野県飯田市教育委員会

ごん が い せき ぐん
恒 川 遺 跡 群

2005年3月

長野県飯田市教育委員会

例　　言

1. 本書は国・県の補助を受けて、平成16年度に実施した市内遺跡発掘調査等事業のうち、古代伊那郡衙址の内容解明とその保護を進めるための恒川遺跡群における重要遺跡範囲確認調査報告書である。
2. 調査は飯田市教育委員会が直営事業として、地権者をはじめ地元地区ほか多くの方々の協力を得て実施した。
3. 調査は、平成16年4月26日、7月6日～9日、10月4日～6日に現地作業、その後整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 調査の地点番号は昭和57年度以降の連続した番号である。
5. 恒川遺跡群については、遺跡が広範にわたるため、発掘作業・整理作業にあたり地籍ごとに略号を用いている。また昭和57年度以降に実施された範囲確認調査および緊急調査については、略号に地番を付している。本書に係る略号は、IKD－池田地籍、YKS－薬師垣外地籍、GOB－恒川B地籍である。
6. 本報告書では、SB－堅穴住居址・堅穴、SD－溝址・溝状址の遺構略号を使用している。
7. 本書の記載順は遺構別を優先した。
8. 調査区の設定については世界測地系に則った飯田市新埋蔵文化財基準メッシュ図に基づき、㈱ジャステックに委託実施した。
9. 遺跡を取り巻く環境については『恒川遺跡群（新屋敷・薬師垣外・阿弥陀垣外地籍）－遺構編－』（飯田市教委 2003）に掲載してあり、再掲を避ける。
10. 本書に関わる図面の整理および執筆は、調査員・整理作業員の協力により渋谷恵美子・下平博行・坂井勇雄・馬場保之が行った。
11. 本書の編集は馬場が行い、吉川 豊が総括した。
12. 本書に関連した出土遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

本文目次

例言		第1節 第27地点	6
目次		第2節 第28地点	8
第Ⅰ章 経過	1	第3節 第29地点	10
第1節 調査の経過	1	第Ⅲ章 総括	14
第2節 調査組織	3	引用文献	14
第Ⅱ章 調査結果	6	報告書抄録	

挿絵目次

挿図1 調査遺跡位置図	2	挿図4 第27地点調査区全体図	7
挿図2 恒川遺跡群調査位置図	4	挿図5 第28地点調査区全体図	9
挿図3 範囲確認調査位置図	5	挿図6 第29地点調査区全体図	12

図版目次

第1図 恒川遺跡群出土遺物(1)	15	第2図 恒川遺跡群出土遺物(2)	16
------------------	----	------------------	----

写真図版目次

図版1 第27地点	調査地全景	重機作業風景	委託測量風景
図版2 第27地点	1トレンチ全景	2トレンチ全景	
図版3 第28地点	調査地全景	重機作業風景	基本層序
図版4 第28地点	調査区全景		
図版5 第28地点	S B72	同遺物出土状況	委託測量風景
図版6 第29地点	調査地全景	重機作業風景	検出作業風景
図版7 第29地点	調査区全景		
図版8 第29地点	S B104	遺物出土状況	土層堆積状況
			委託測量風景

第Ⅰ章 経過

第1節 調査の経過

(1) 第27地点（池田地籍 I KD 3556-3）

平成16年3月10日付けで、飯田市座光寺3902-1 滝澤正十三および飯田市今宮町3-101-2 滝澤佳人より土木工事等のための埋蔵文化財発掘についての届出が提出された。開発内容は遺跡内でのブレハブ造事務所建設であり、掘削深度はおよそ30cm程度と浅いため、遺構面が破壊されるおそれはないものの、郡衙関連遺跡の一部であるため確認調査を実施することとなった。

同年4月26日より重機を用いて検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。検出された遺構および調査地点の測量は轉ジャステックに委託実施した。同日中に埋め戻しを実施し、現地作業は終了した。

(2) 第28地点（薬師垣外地籍 YKS 4697-1）

平成16年2月10日、飯田市座光寺4651 塚田俊夫が座光寺4697-1において個人住宅を建築する計画が提示され、同年6月23日松本市篠部1-3-6 長野中央ホーム株式会社 代表取締役 菊池宏一郎から土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。計画は木造2階建の専用住宅で、基礎工事は布基礎で地表下50cm程度の掘削を予定するものであった。工事予定地周辺の遺構検出面は地表下150cmと深く、基礎工事の遺構に及ぼす影響は少ないと考えられるが、工事予定地周辺の遺構分布を考慮すると、事前に当該地での分布状況把握のための確認調査実施は不可欠と判断された。

諸協議に基づいて、7月6日確認調査に着手した。重機を用いて東側駐車場建設部分と西側の一部について検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。検出された住居址等について写真撮影・測量作業を行い、埋め戻して同月9日現地での作業を終了した。

(3) 第29地点（恒川B地籍 GOB 4726）

平成16年9月21日、飯田市座光寺2096-2 木下文子より、飯田市座光寺4726における集合住宅建設に係る土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。工事内容は盛土造成した後60cmの基礎掘削を予定するものであった。同所周辺はこれまでの範囲確認調査・緊急発掘調査結果から遺構面が深さ100cm程度にあることが把握されており、当該事業において遺構が破壊される懸念はないとの判断された。しかし、事業計画地における遺構の分布状況や時期別の遺構変遷等について確認調査を行う必要があり、工事実施前に建物位置からずらして範囲確認調査を実施することとなった。平成16年10月4日確認調査に着手した。重機により確認トレーニチを掘削した。同6日より作業員を入れて遺構の確認作業を行い、写真撮影・委託測量作業実施後埋め戻しをして現地作業を終了した。

(4) 整理作業

飯田市考古資料館において、出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物の実測・拓本とり、遺構

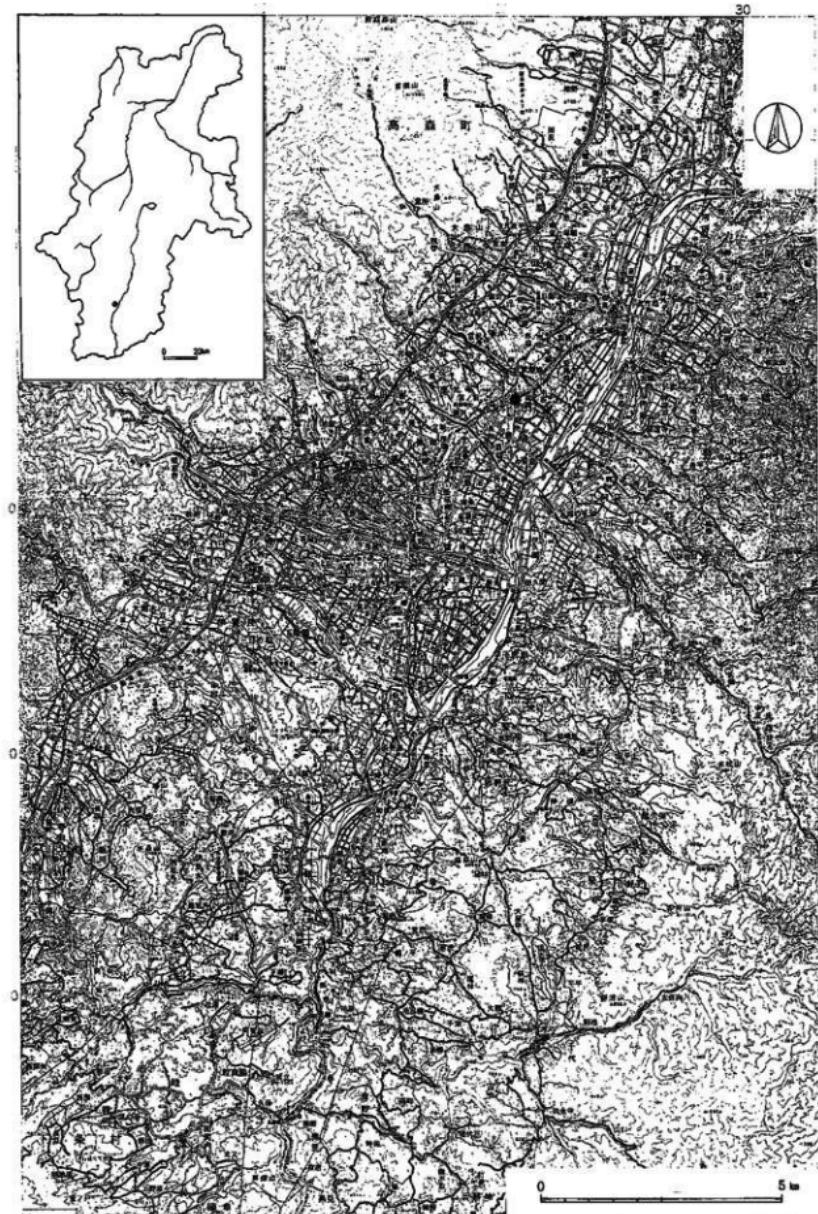


図 1 調査遺跡位置図

図等の作成・トレース作業、写真類の整理、版組み等の整理作業を行い、本重要遺跡範囲確認調査報告書の作成作業にあたった。

第2節 調査組織

(1) 調査団

調査主体者 飯田市教育委員会 教育長 富田 泰啓
調査担当者 馬場 保之・渋谷恵美子・下平 博行・坂井 勇雄・佐々木嘉和
作業員 金井 照子・北原 裕・熊崎三代吉・小平まなみ・瀬古 郁保
竹本 常子・橘 千賀子・樋本 宣子・松本 恒子・宮内真理子
森藤美知子・柳沢 謙二・吉川 悅子

(2) 指導 文化庁

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
長野県教育委員会

(3) 事務局 飯田市教育委員会

尾曾 幹男 (教育次長)
小林 正春 (生涯学習課長)
吉川 豊 (生涯学習課文化財保護係長)
馬場 保之 (" 文化財保護係)
渋谷恵美子 (" ")
佐々木行博 (" ")
下平 博行 (" ")
坂井 勇雄 (" ")



1. 第27地点 (IKD3556-3)
3. 第29地点 (GOB4726)

2. 第28地点 (YKS4697-1)

挿図2 恒川遺跡群調査位置図



- | | | | |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1. 第1地点 (57年度) | 2. 第2地点 (57年度) | 3. 第3地点 (57年度) | 4. 第4地点 (57年度) |
| 5. 第5地点 (58年度) | 6. 第6地点 (58年度) | 7. 第7地点 (59年度) | 8. 第8地点 (60年度) |
| 9. 第9地点 (60年度) | 10. 第10地点 (61年度) | 11. 第11地点 (62年度) | 12. 第12地点 (63年度) |
| 13. 第13地点 (元年度) | 14. 第14地点 (2年度) | 15. 第15地点 (5年度) | 16. 第16地点 (6年度) |
| 17. 第17地点 (6年度) | 18. 第19地点 (7年度) | 19. 第20地点 (8年度) | 20. 第21地点 (8年度) |
| 21. 第22地点 (9年度) | 22. 第23地点 (10年度) | 23. 第24地点 (11年度) | 24. 第25地点 (11年度) |
| 25. 第18地点 (7年度・12年度) | | 26. 第26地点 (13年度) | 27. 第27地点 (16年度) |
| 28. 第28地点 (16年度) | 29. 第29地点 (16年度) | | |

挿図3 範囲確認調査位置図

第Ⅱ章 調査結果

第1節 第27地点（池田地籍 I K D 3556-3）

（1）調査地点の概要

池田地籍は遺跡群の西端に位置し、東は田中・倉垣外地籍と正倉の確認された薬師垣外地籍にそれぞれ隣接する。平成5年度に宅地分譲に先立ち試掘調査を実施し、平安時代の住居址が確認されている。平成9年度に個人住宅を建設するのに際して立会調査を、また平成15年度に宅地造成に先立ち試掘調査を実施し、古墳時代後期の住居址2棟が検出されている。

（2）基本層序

水田耕作土25cm・鉄分集積層10cm・旧水田層40cm・灰褐色土層40cmで構成される黄褐色土層となる。地形は西から東に向かい緩やかな傾斜が確認された。

（3）調査結果

1) 穴穴住居址

① S B04 (挿図4)

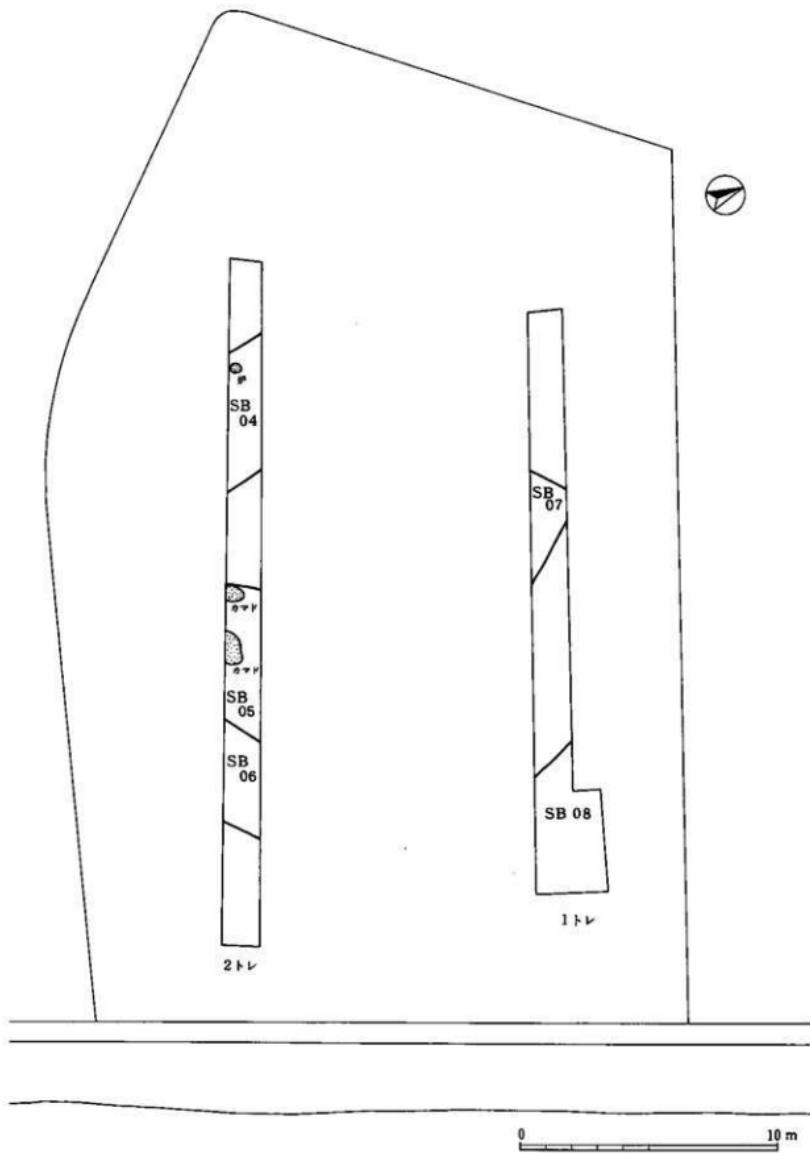
[検出位置] 2トレンチ西側 [規模] 4.3×-m、深さ-cm [床面積] - m² [形態] 方形を呈すると考えられる [主軸] N99.2° W [重複] 不明 [調査所見] 床面と炉址を検出して把握した [埋土] 自然埋没 [壁] 不明 [床] 厚く締まった床 [周溝] なし [柱穴] 1基 [炉] 烧土が西壁寄り中央付近に検出された。地床炉と考えられる [付属施設] 不明 [増改築] なし [床下検出遺構] なし [出土遺物] 弥生時代後期の土器5点 [時期] 弥生時代後期と考えられる。

② S B05 (挿図4)

[検出位置] 2トレンチ中央 [規模] (5.1)×-m、深さ-cm [床面積] - m² [形態] 圓丸方形を呈すると考えられる [主軸] N125.4° W [重複] 別の新しい住居址が切ると考えられる [調査所見] 本址中央付近で本址に伴わないカマドの痕跡が検出され、本址より新しい住居址の存在があるが、それ以外把握できず [埋土] 自然埋没 [壁] 不明 [床] 不明 [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 南西壁西隅近くに構築される [付属施設] 不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] 須恵器短頸壺(第1図1) [時期] 奈良時代と考えられる。

③ S B06 (挿図4)

[検出位置] 2トレンチ東端 [規模] - × - m、深さ-cm [床面積] - m² [形態] 不明 [主軸] 北西辺の方向N45.4° E [重複] 不明 [調査所見] 一辺が確認されたのみ [埋土] 自然埋没 [壁] 不明 [床] 不明 [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 不明 [付属施設] 不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] 土器片のみ出土 [時期] 平安時代と考えられる。



擇図4 第27地点調査区全体図

④ S B07 (挿図4)

[検出位置] 1トレンチ中央西側 [規模] -×-m、深さ-cm [床面積] -m² [形態] 方形を呈する
ると考えられる [主軸] 北東壁の方向N39° W [重複] 不明 [調査所見] 直交方向の2辺を把握
[埋土] 自然埋没 [壁] 不明 [床] 不明 [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 不明 [付属施設]
不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] 土師器片のみ出土 [時期] 平安時代と考え
られる。

⑤ S B08 (挿図4)

[検出位置] 1トレンチ東端 [規模] -×-m、深さ-cm [床面積] -m² [形態] 不明 [主軸] 西
壁の方向N19.7° W [重複] 不明 [調査所見] 特記なし [埋土] 自然埋没 [壁] 不明 [床] 不明
[周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] トレンチ東端付近に焼土があり、南辺にカマドがあった可能
性がある [付属施設] 不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] いずれも土師器片の
み [時期] 平安時代と考えられる。

2) その他の遺構

この他、時期不明の土坑・溝址・柱穴が確認された。

3) 遺構外出土遺物

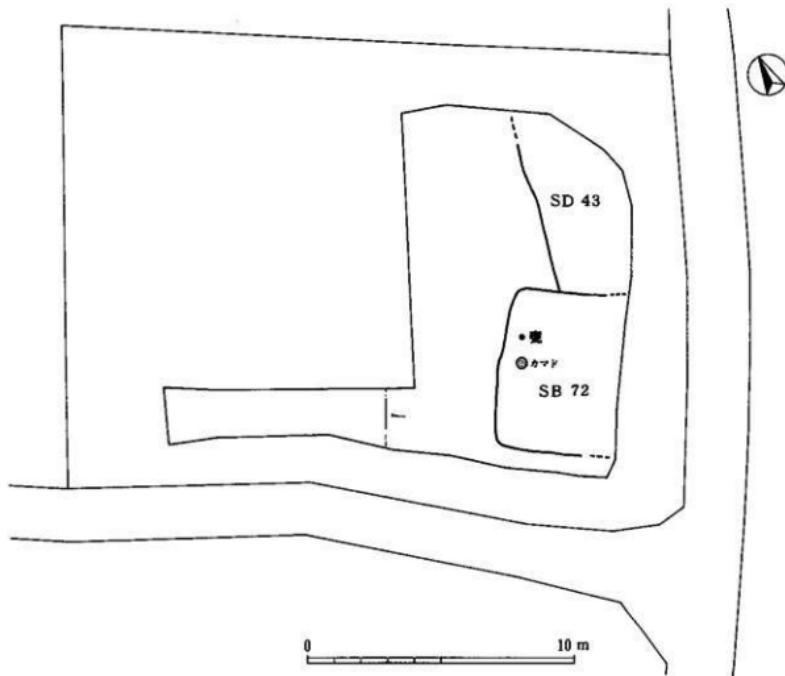
遺構外から縄文時代中期深鉢片（第1図2）、須恵器坏（3・4）が出土した。3は1トレンチ、2・
4は2トレンチからの出土である。

第2節 第28地点（薬師垣外地籍YKS4697-1）

（1）調査地点の概要

平成6年度に第17地点で正倉とみられる建物址群が確認されて以来、正倉域を区画する溝の追跡と正
倉群の配置や変遷の把握等を目的として、恒川遺跡群の中でも特に集中的に調査を実施している。昭和
58年度範囲確認調査地点（第6地点、YKS4699-3）では弥生時代中期1棟・古墳時代後期4棟の
豊穴住居址等が確認されている。また、平成11年度範囲確認調査地点（第25地点、YKS4694・YK
S4700-1）では正倉域を区画する溝が把握されている。さらに平成6年度範囲確認調査地点（第16
地点、YKS4684-1）では古墳時代後期の住居址1棟が把握されている。

本調査地点の西側の田中倉垣外地籍では、平成5年度範囲確認調査地点（第15地点、KUR4643）
では弥生時代後期1棟・古墳時代後期2棟の豊穴住居址、掘立柱建物址2棟が確認されている。また、
恒川B地籍でも本調査地点に近い部分では古墳時代後期～終末の住居址が多い。さらに、阿弥陀垣外地
籍では昭和60年度範囲確認調査地点（第9地点、AMD4742-5）で古墳時代後期の住居址4棟等、
平成8年度緊急調査地点（AMD4700-3）で古墳後期7棟・平安時代1棟の住居址等が確認されてい
る。本調査地点周辺では奈良時代～平安時代前半にかけて遺構の空白域となっていることが注意される。



挿図5 第28地点調査区全体図

(2) 基本層序

東側部分では、地表より耕土（層厚45cm）、黄褐色砂質土（層厚35cm）、暗褐色土（層厚45cm）、黄褐色土（層厚25cm）で地山に至る。遺構検出面はこの地山上面である。地山面は西側部分が大型礫を多く含む褐色土で東側に傾斜しており、東側部分の東半は粘性のある黄褐色土である。この部分で南北方向に小段丘が形成されていることが判明した。なお、黄褐色砂質土は『未満水』起源と考えられ、天地返しを受けている。

(3) 遺構と遺物

1) 窪穴住居址

① S B 72 (挿図5)

【検出位置】 調査区南東隅 【規模】 5.9×-m、深さ- cm 【床面積】 - m² 【形態】 方形を呈すると考えられる 【主軸】 北西壁の方向N34.1° E 【重複】 SD 43を切る 【調査所見】 1／2程度把握され、残りは調査区外にかかる。検出面で覆土中に2箇所焼土が検出された 【埋土】 自然埋没 【壁】

不明【床】不明【周溝】不明【柱穴】不明【カマド】不明【付属施設】不明【増改築】不明【床下検出遺構】不明【出土遺物】土器高杯・小形壺・甕（第1図5）がある。甕は胸部球形を呈し、北西壁際やや北側で横倒しの状態で出土した【時期】古墳時代後期に比定される。

2) 溝址

① S D 43（挿図5）

S B72に切られる。弥生時代の溝址と考えられ、薬師塙外地籍の調査区（Y K S 4693-1・同4700・同4733）で検出された溝址と関連があるものと考えられる。

第3節 第29地点（恒川B地籍G O B 4726）

（1）調査地点の概要

まず、恒川B地籍のこれまでの範囲確認調査や緊急調査の結果を整理すると、調査地点の西側では、一般国道153号座光寺バイパス建設に先立つ調査で、弥生時代中期～平安時代の竪穴住居址62棟、掘立柱建物址24棟、工房址1棟等が調査され、硯の他、工房址から帶金具等が出土している。昭和59年度範囲確認調査（第7地点A）では奈良時代の竪穴住居址2棟を含む住居址3棟等が検出され、奈良時代は居住域の一画であったことが判明した。同年度の範囲確認調査（第7地点B）では古墳時代後期の竪穴住居址6棟等検出され、溝址から轡が出土している。平成元年度には店舗建設に先立ち緊急調査が実施され、古墳時代後期の竪穴住居址6棟、掘立柱建物址2棟等が調査されている。また、平成5年度に実施した店舗兼住宅建設に先立つ緊急調査では、弥生時代後期～奈良時代の竪穴住居址17棟、掘立柱建物址2棟、古墳時代の溝址等が調査されている。さらに調査地点の南側では、平成4年度に個人の宅地分譲に先立ち行われた試掘調査で古墳時代後期～平安時代前半の竪穴住居址8棟、掘立柱建物址1棟等が確認されている。

調査地点の北側は新屋敷地籍となるが、平成元年度に工場建設に先立ち実施された調査では、古墳時代後期～平安時代後期等竪穴住居址78棟、掘立柱建物址28棟、柱列址1基、溝址3条等が調査されている。溝址37は幅3mの区画溝で、奈良時代に比定される。溝址埋土中から墓壙は確認されなかったものの、馬臼歯が1体分出土している。柱列址1は溝址37と方向を揃えており、一体の施設と考えられる。掘立柱建物址には阿弥陀塙外地籍でバイパス建設時に調査された建物と方向を揃えるものがある。金銅装の飾金具等が出土している。

こうした周辺の調査状況から、本調査地点は律令期には居住域の一部であったと考えられる。

（2）基本層序

I層は表土（層厚約15cm）、II層暗褐色砂土（層厚約10cm）、III層黄褐色砂（層厚約20cm）、IV層黒色土（層厚約15cm）、V層黒褐色土（層厚約20cm）で、地山である再堆積の砂質ロームに至る。III層がいわゆる『未溝水』による洪水層で、下面には畑の畝条が看取される。

(3) 調査の結果

1) 穴住居址

① S B104 (挿図6)

【検出位置】調査区南東側 【規模】 $- \times -$ m、深さ約10cm 【床面積】 $-m^2$ 【形態】方形を呈すると考えられる 【主軸】南東壁の方向N34.5° E 【重複】S D34を切り、S B109に切られる 【調査所見】S B109との新旧関係は土層確認トレンチの観察結果による 【埋土】自然埋没 【壁】やや急な立ち上がりを示す 【床】土層確認トレンチ部分では堅い床面は確認できず 【周溝】土層確認トレンチ部分では把握されず 【柱穴】不明 【カマド】不明 【付属施設】不明 【増改築】不明 【床下検出遺構】不明 【出土遺物】土師器坏(内黒)・甕(第1図6)、須恵器蓋坏(蓋)がある。土師器長胴甕6はS B109に近接し、床面直上で横倒しの状態で出土した 【時期】古墳時代後期に比定される。

② S B105 (挿図6)

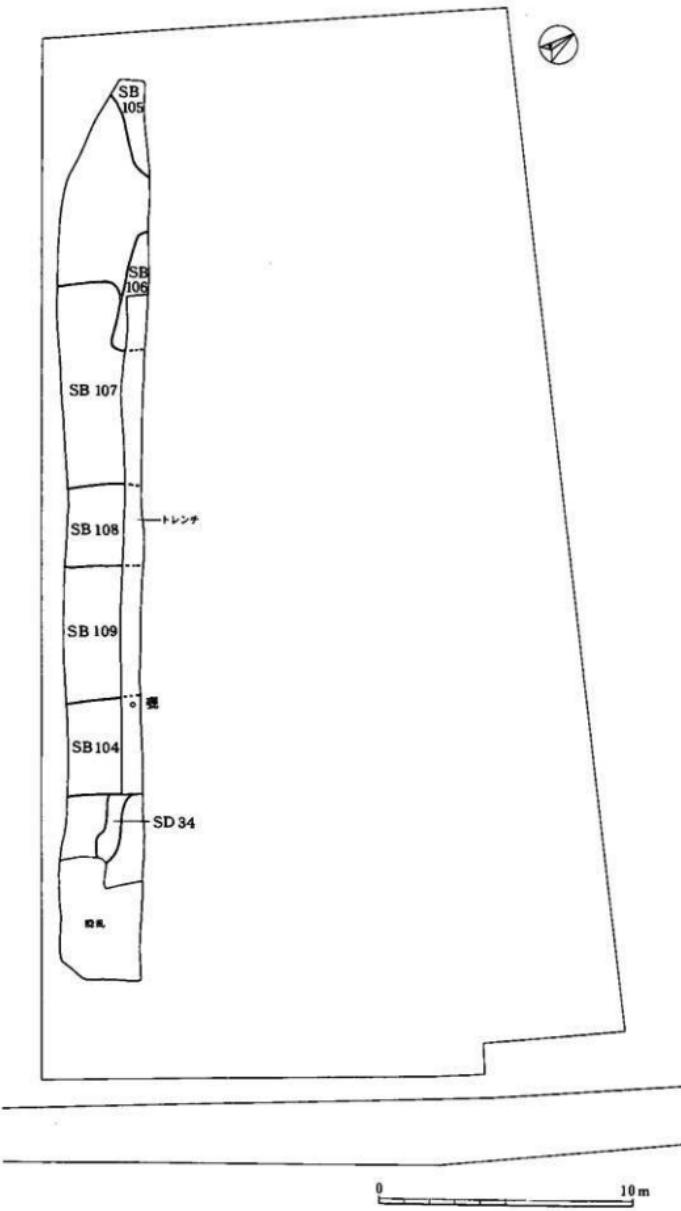
【検出位置】調査区北西端 【規模】 $- \times -$ m、深さ-cm 【床面積】 $-m^2$ 【形態】大部分が調査区外にかかり、不明 【主軸】南西壁の方向N67.5° W 【重複】不明 【調査所見】調査区壁際東端部分で扁平な礎が立位 【埋土】自然埋没 【壁】不明 【床】不明 【周溝】不明 【柱穴】不明 【カマド】不明 【付属施設】不明 【増改築】不明 【床下検出遺構】不明 【出土遺物】土師器坏(内黒)が出土 【時期】古墳時代後期の住居址と考えられる。

③ S B106 (挿図6)

【検出位置】調査区の北西側 【規模】 $4.7 \times -$ m、深さ-cm 【床面積】 $-m^2$ 【形態】方形を呈すると考えられる 【主軸】南西壁の方向N39.5° W 【重複】S B107を切る 【調査所見】S B107との新旧関係は土層確認トレンチの観察結果による。土層確認トレンチは床面まで達しない 【埋土】上層暗褐色土、下層褐色土のいわゆるレンズ状の堆積で、自然埋没と考えられる 【壁】やや急な立ち上がりを示す 【床】不明 【周溝】不明 【柱穴】不明 【カマド】不明 【付属施設】不明 【増改築】不明 【床下検出遺構】不明 【出土遺物】出土遺物は少なく、土師器小型甕(第1図7)、須恵器坏(8)・蓋(9)がある。須恵器坏は底部がヘラケズリされる 【時期】出土遺物や新旧関係から、奈良時代に比定される。

④ S B107 (挿図6)

【検出位置】調査区の北西側 【規模】 $7.9 \times -$ m、深さ-cm 【床面積】 $-m^2$ 【形態】方形を呈すると考えられる 【主軸】北西壁の方向N32° E 【重複】S B108を切り、S B106に切られる 【調査所見】S B106・S B108との新旧関係は土層確認トレンチの観察結果による。土層確認トレンチは床面まで達しない 【埋土】明褐色土 【壁】やや急な立ち上がりを示す 【床】不明 【周溝】不明 【柱穴】不明 【カマド】不明 【付属施設】不明 【増改築】不明 【床下検出遺構】不明 【出土遺物】土師器坏(内黒、第2図1)・鉢(2)・高坏・甕(3・4)・長胴甕、須恵器坏(5)・高台坏・長頸甕、織物石が出土した。須恵器坏は回転糸切り後、縁辺部をヘラケズリされる。また、土師器類はS B108から混入した遺物と考えられる。他に検出時にS B108と混じり取り上げた遺物として須恵器坏(8)・短頸甕



挿図 6 第29地点調査区全体図

(9) がある [時期] 出土遺物から奈良時代の住居址と考えられる。

⑤ S B108 (挿図6)

[検出位置] 調査区中央付近 [規模] $- \times -$ m、深さ-cm [床面積] $- m^2$ [形態] 不明 [主軸] 不明 [重複] S B107・S B109に切られる [調査所見] S B107・S B109との新旧関係は土層確認トレンチの観察結果と出土遺物による [埋土] 不明 [壁] 不明 [床] 不明 [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 不明 [付属施設] 不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] 土師器壺(内黒)・須恵器壺(第2図10)・蓋(11・12)がある。須恵器蓋(11)には内面に返しが付く [時期] 出土遺物から古墳時代終末～奈良時代の住居址と考えられる。

⑥ S B109 (挿図6)

[検出位置] 調査区中央やや南東寄り [規模] $5.2 \times -$ m、深さ-cm [床面積] $- m^2$ [形態] 方形を呈すると考えられる [主軸] 北西壁の方向N36°E [重複] S B104・S B108を切る [調査所見] S B104・S B108との新旧関係は土層確認トレンチの観察結果と出土遺物による [埋土] 不明 [壁] 不明 [床] 不明 [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 不明 [付属施設] 不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物] 土師器高壺(内黒)・長胴壺、須恵器高台壺(第2図13)・蓋(14)がある [時期] 出土遺物から奈良時代に比定される。

2) その他の遺構

S B105～S B107に囲まれた部分では、具体的に組み合うものは把握できないものの、掘立柱建物址の柱穴とみられる柱穴が數本みつかっている。位置からみて奈良時代の住居址より古く、古墳時代に比定できる。S D34は幅90cm程度で、内部から打製石器(第2図16)・打製石斧(17)が出土した。部分的な検出で即断はしかねるが、弥生時代の方形周溝墓の可能性がある。

3) 遺構外出土遺物

S B104から弥生時代中期の壺片(第2図15)が出土しているが、S D34からの混入の可能性がある。

第III章 ま と め

各範囲確認調査地点の状況を整理し、本重要遺跡範囲確認調査報告書のまとめとし、その総括は平成18年度に予定している遺跡群全体の総括の中で行うこととする。

第27地点

弥生時代後期から平安時代にかけての集落域南西端と推定される。遺構検出面は地表下1mを超えており、基礎工事は検出面に達しないことが追認された。郡衙関連遺構は確認されず、竪穴住居址の存在から郡衙が存続していた期間にあっては居住域の一画にあたっていたことが確認された。隣接する流田地籍の試掘・立会調査結果では低湿地が確認されており、今次調査地点では集落域から湿地帯への移行が把握されると考えられたが、調査部分で低湿地は確認できず、さらに西側まで居住域が広がっていることが判明した。

第28地点

古墳時代後期の竪穴住居址と弥生時代の溝址が確認されたのみであるが、まず本確認調査地点の成果として、遺跡群内の微地形が把握されたことを挙げることができる。これまで恒川清水付近から南側には小段丘が明瞭に把握されていたが、本地点周辺では不明瞭であった。今回の確認調査でこの小段丘の収束部分が把握されたことは、遺跡群の中で官衙の諸機能がどのように配置されていたか解明する上で重要な意味をもつといえる。

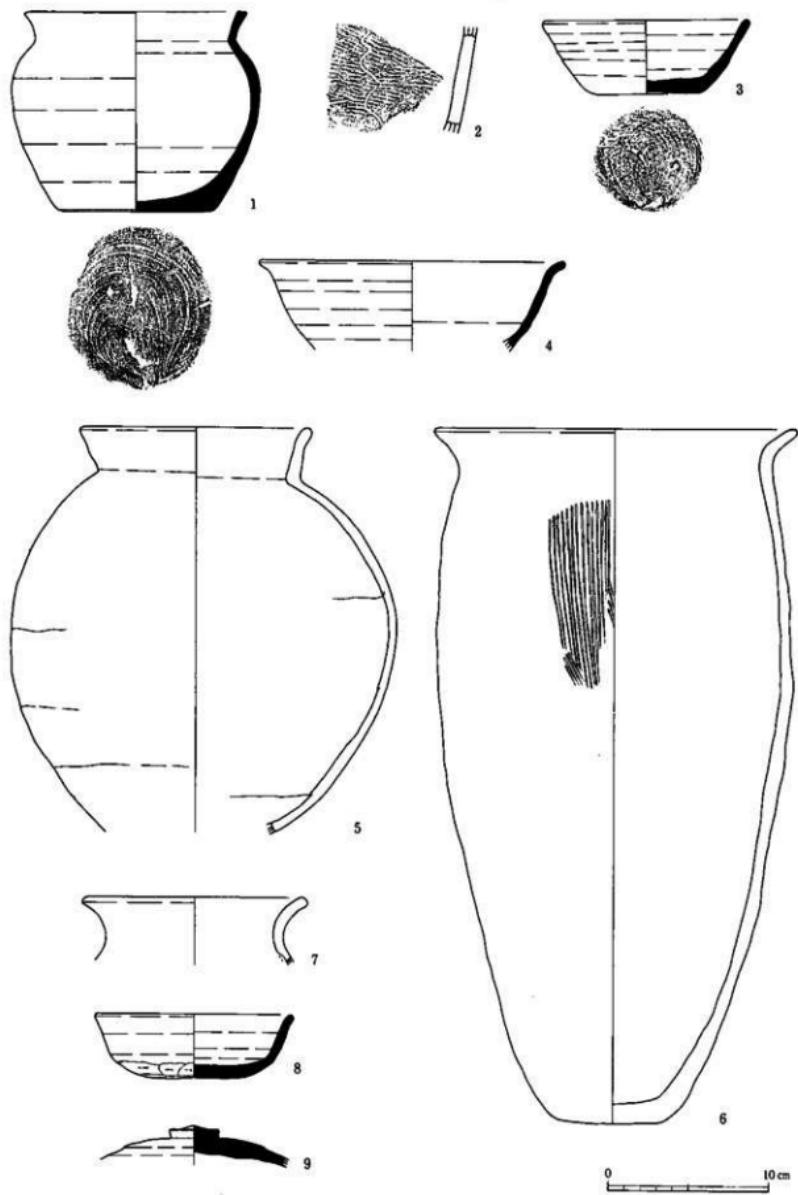
これまで周辺地点の確認調査結果では奈良時代～平安時代前半にかけて遺構の空白域であることが推定されてきたが、今回の調査でもこうした推定がさらに補強された。

第29地点

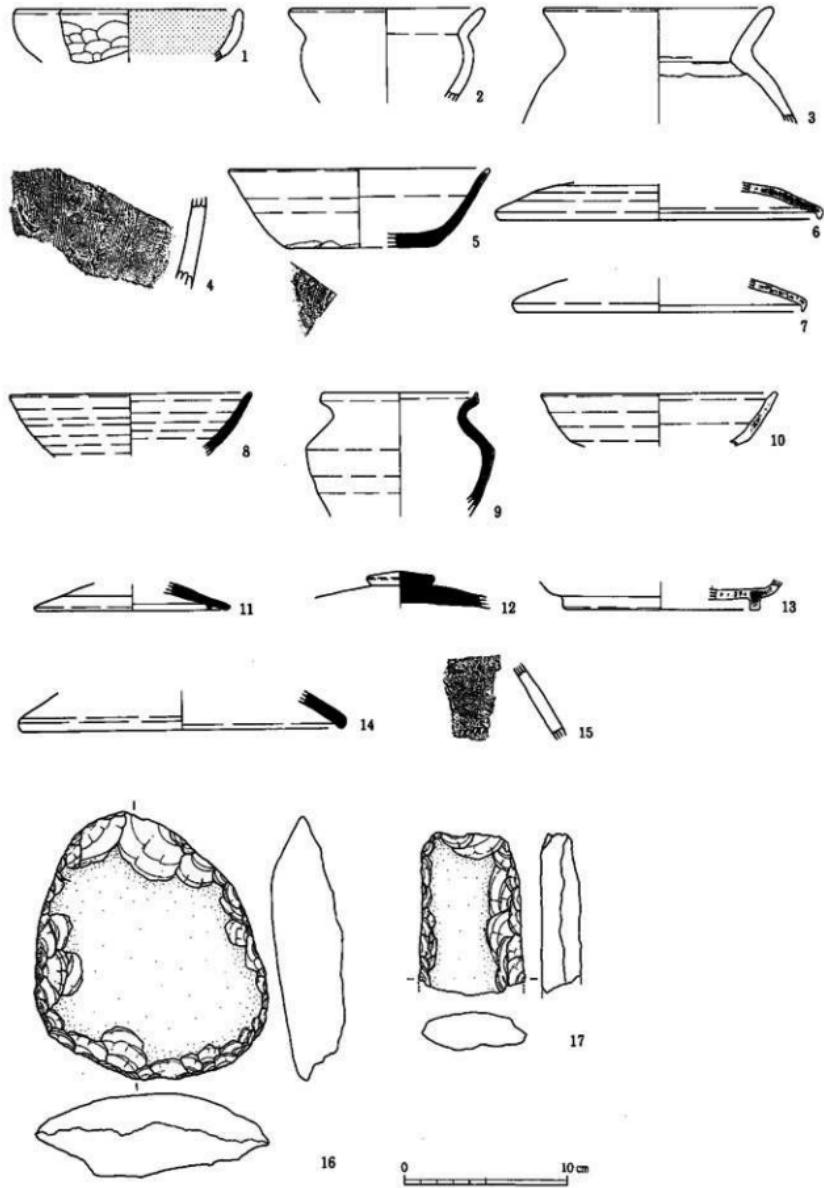
古墳時代後期から奈良時代にかけての集落の一画にあたることが確認された。重複関係から3～4時期程度の変遷がある。継続して竪穴住居が建てられており、郡衙城外の官人層の居住域にあたると考えられる。また弥生時代中期まで遡る墓と推定される遺構の断片が把握されたことは、隣接する平成元年度緊急調査地点（G O B4724-1）やバイパス路線内、平成5年度緊急調査地点（G O B4705）等で確認されている周溝墓群がさらに東側まで広がることを示唆している。

【引用文献】

- 飯田市教育委員会 2003 『恒川遺跡群（新屋敷・薬師垣外・阿弥陀垣外地籍）－遺構編－』
飯田市教育委員会 2004 『恒川遺跡群（田中倉垣外・恒川A・恒川B地籍）－遺構編その2－』



第1図 恒川遺跡群出土遺物 (1) (1~4: I.K.D. 5: Y.K.S. 6~9: G.O.B.)



第2図 恒川遺跡群出土遺物(2) (1~17: GOB)

写 真 図 版



第27地点 調査地全景



同 重機作業風景



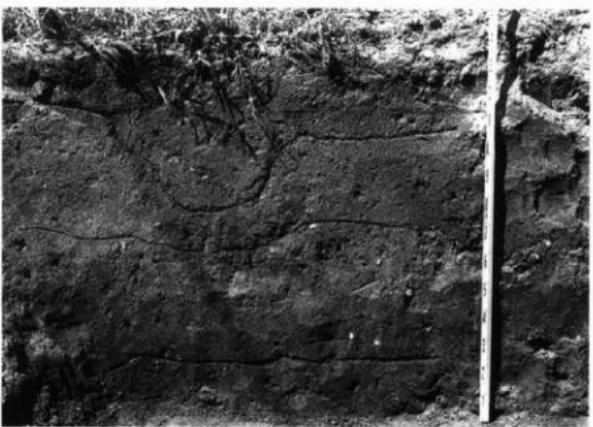
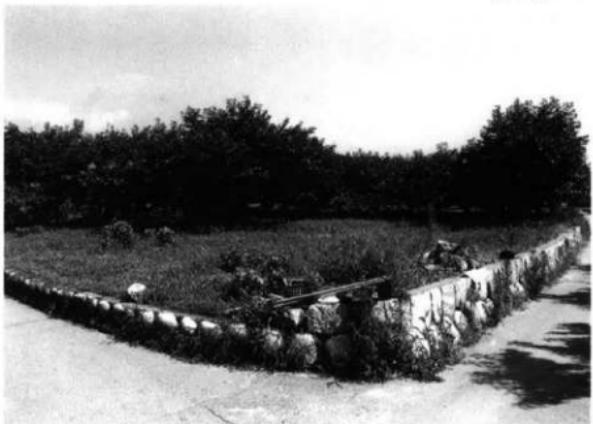
同 委託測量風景



第27地点 1トレンチ全景（東から）



同 2トレンチ全景（東から）





第28地点 調査区全景（南から）



同上（北から）



第28地点 SB 72



同上 遺物出土状況



同 委託測量風景

図版 6



第29地点 調査地全景



同 重機作業風景



同 検出作業風景



第29地点 調査区全景（西から）



同上（東から）



第29地点
S B 104遺物出土状況



同 土層堆積状況



同 委託測量風景

報告書抄録

ふりがな	ごんが いせきぐん							
書名	恒川遺跡群							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	渋谷恵美子・下平博行・坂井勇雄・馬場保之							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地 TEL0265-22-4511							
発行年月日	平成17年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
恒川遺跡群 (池田地籍)	飯田市座光寺 3556-3	20205		35° 31' 40"	137° 51' 50"	平成16年 4月26日	74.36 m ²	範囲確認 調査
同 (薬師垣外地籍)	同 4697-1	20205		35° 31' 45"	137° 52' 00"	7月6日 ~ 7月9日	110m ²	範囲確認 調査
同 (恒川B地籍)	同 4726	20205		35° 31' 43"	137° 52' 05"	10月4日 ~ 10月6日	110.19 m ²	範囲確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
恒川遺跡群 (池田地籍)	郡衙址 集落址	绳文時代 弥生時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居址 5棟 土坑 溝址 柱穴	绳文土器 弥生土器 土師器 須恵器		弥生時代から平安 時代にかけての集落 域にあたることが確 認された。		
同 (薬師垣外地籍)	郡衙址 集落址	弥生時代 古墳時代	竪穴住居址 1棟 溝址 1条	弥生土器 土師器		遺跡群内の微地 形が把握され、奈 良時代~平安時代 前半には遺構の空 白城となる状況が 確認された。		
同 (恒川B地籍)	郡衙址 集落址	弥生時代 古墳時代 奈良時代	竪穴住居址 6棟 溝址 1条	弥生土器 石器 土師器 須恵器		古墳時代後期か ら奈良時代にかけ ての集落の一画に あたることが確認 された。		

こん が い せき ぐん
恒 川 遺 跡 群

2005年3月発行

編集・発行 長野県飯田市大久保町2534番地
飯田市教育委員会

印 刷 龍共印刷株式会社
